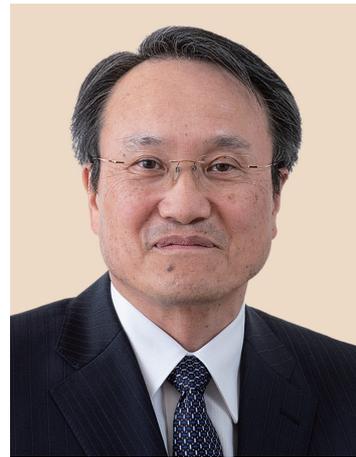


巻頭言



JFE ホールディングス 代表取締役副社長

寺畑 雅史

近年、ICT（Information and Communication Technology）は目覚ましい進歩を遂げてきており、日本政府はこうした技術革新を主軸とした新時代の社会モデル「Society 5.0」の構築を政策の中核に掲げています。まさに社会は新たな変革の時代を迎え、産業界でもIoT、AI、ビッグデータ解析（データサイエンス）といった新技術の導入が急速に進められています。これはデジタル技術と、それによりもたらされる大容量にして多次元のデジタルデータ活用による、様々な方面に渡るイノベーションと言えると思います。

JFEグループにおきましても、こうした技術及びデータの活用を強力に推進しています。本技報は、デジタルデータ活用の主軸である「データサイエンス」を特集の名称として掲げ、JFEグループにおけるICTほかデジタルデータ活用に関連する最新の取り組みをまとめたものです。

JFEスチールにおきましては、製造プロセスの情報インフラを次世代型へ再構築してIoT化を進める一方、最先端レベルのデータサイエンスによるプロセスの解析、モデリング、各種最適化の実装を進めています。電気保全ではAIによる故障対応支援システムを全社に展開しました。JFEエンジニアリングでは、日本各地のゴミ焼却プラントを横浜市のGlobal Remote Centerにおいて、遠隔監視及びAI支援による遠隔運転が可能な高度なIoTを実現しています。また、工場の遠隔統合監視プラットフォームをはじめ様々なICTとその関連サービスの提供を開始しております。さらにJFEテクノロジーサーチでは「データサイエンスセンター」を設け、Deep Learning等によるソリューションの提供をはじめました。

まだまだイノベーションの域には踏み込めていませんが、本技報に以上のような取り組みの成果事例を掲載いたしましたので、お目通しいただければ幸いです。スチール、エンジニアリングの両社は、専門の組織を立ち上げ、データサイエンスやAIを社内の誰もが使用できるツールと環境を整えるなど、いわゆるデジタルトランスフォーメーション（Digital Transformation;DX）をさらに加速する施策を進めています。また、この分野の専門ベンダー各社及び公的研究機関との協業にも積極的に取り組んでいます。

デジタルデータの活用及びデータサイエンス、AI活用などによるDXは、今後の社会にさらなるイノベーションをもたらす重要な技術と考えられ、それは、JFEグループの「世界

最高の技術をもって社会に貢献する」という企業理念の実現施策のひとつとしても重要と捉えています。我々はこれらの技術を環境保全から高品質かつ安心・安全・安定な商品とサービスのご提供まで広く活用し、お客様から評価いただける企業グループとして成長していきたいよう、留まることなく技術開発と実用化を進めていく所存です。